

被爆樹木二世の苗木の植樹について

品川区が1985年3月26日に「非核平和都市品川宣言」を行い40年が経過する。宣言には「核兵器廃絶」と「恒久平和確立」の精神が謳われており、これを普及・啓発し、次世代へ継承していくことが求められている。

その1つの象徴および宣言50周年へ向けた新たな10年の礎として、核兵器の熱線や爆風に耐え、今なお被爆地で生き続ける広島および長崎の被爆樹木二世の苗木を植樹する。

1. 植樹

(1) 被爆アオギリ二世（広島）

昭和20年(1945年)8月6日、爆心地から北東へ約1.3kmにあった旧広島通信局の中庭で被爆したアオギリ。昭和48年(1973年)に平和記念公園に移植された。このアオギリが実らせた種を発芽させ、成長した苗木が「被爆アオギリ二世」。

(2) 被爆クスノキ二世（長崎）

昭和20年(1945年)8月9日、爆心地から南東へ約800mのところにあった山王神社の2本のクスノキは、強烈な熱線と凄まじい爆風により大きな被害を受けた。現在は長崎市の天然記念物に指定されており、このクスノキの種から育てられた苗木が「被爆クスノキ二世」。

2. 植樹場所

しながわ中央公園（「平和のモニュメント」後方）



3. 植樹日

令和8年3月25日（水） 午後2時50分～3時20分（予定）